

静岡ブルーレヴズ ラグビースクール

2023年 釜石遠征活動レポート

2023.9.16 - 17



遠征目的

- 釜石ともだちマッチによる同世代選手と交流し、絆を深める
- 震災学習を通じ、東海地区に住む子供達の防災意識を高め命を守る

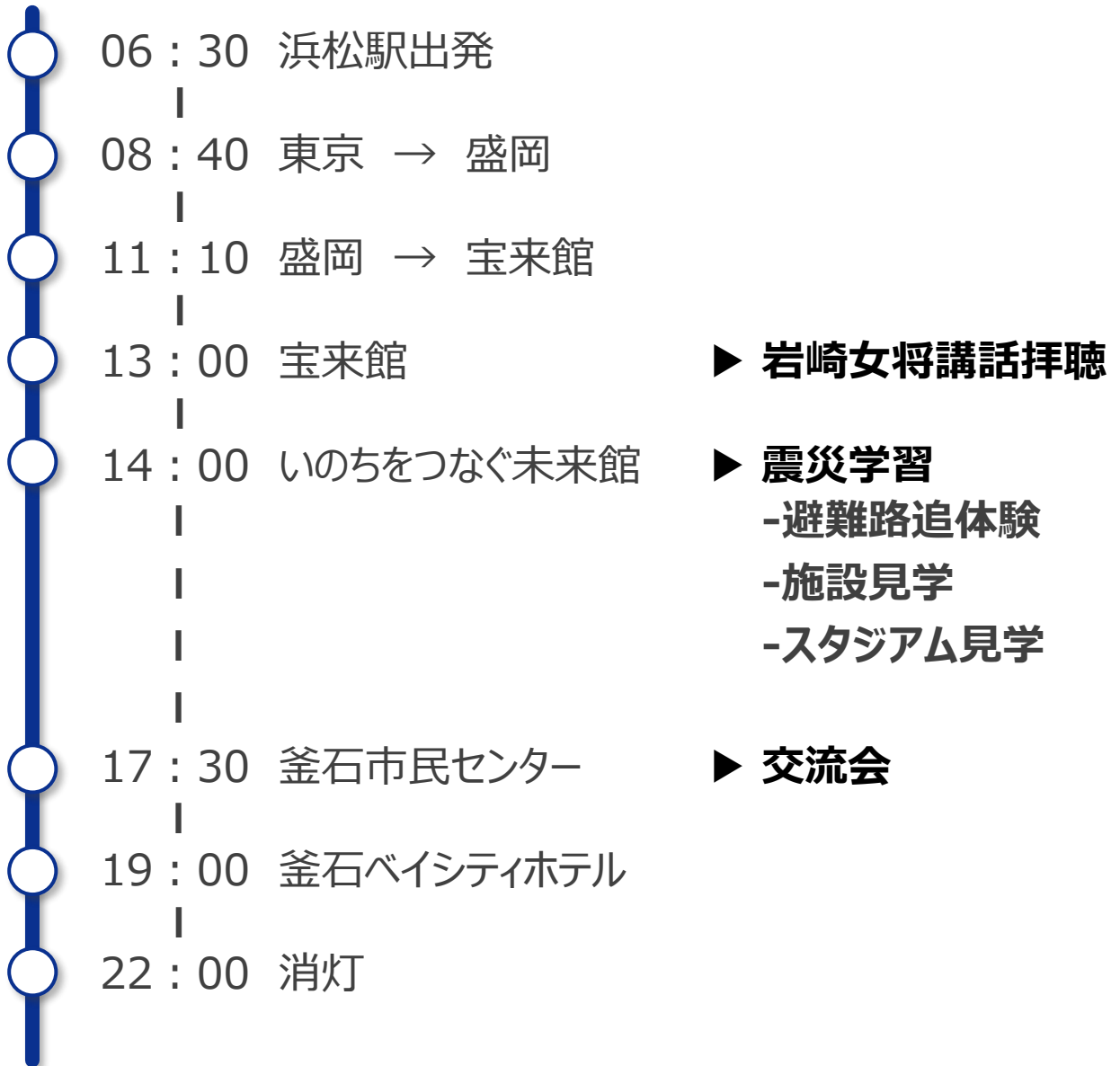
9/16

- 宝来館女将 岩崎さん講話
- 東日本大震災避難路追体験
- いのちをつなぐ未来館見学
- 釜石鵜住居復興スタジアム見学
- 交流会


9/17

- ともだちマッチ
- 絆マッチ試合観戦

【 行程 】 ～1日目～



【 行程 】 ～2日目～

- 
- 06 : 30 散歩/ストレッチ
 - 07 : 00 朝食
 - 08 : 50 釜石鵜住居復興スタジアム到着
 - 10 : 40 ともだちマッチK/O ▶ **釜石シーウェイブスアカデミー**
 - 13 : 00 絆マッチK/O ▶ **釜石シーウェイブスRFC**
 - 15 : 15 釜石鵜住居復興スタジアム出発
 - 17 : 18 新花巻出発
 - 20 : 12 東京駅出発
 - 21 : 34 浜松駅到着 解散

宝来館女将 岩崎さん講話



震災前は1.3km程あった砂浜が、震災で消滅してしまう。現在では宮城県の砂を入れ450mほどの砂浜が復活。今も釜石の人々が手入れをしながら景観を維持している。

女将の「心地よい自然は、自然だけでなくそこに住む人間が一緒になって作ることで成り立つ」という言葉が印象的でした。



砂浜を見学した後は、当時の映像を見ながら女将自ら体験談をお話していただき、震災の教訓についても生徒たちは学ぶことができました。

- 地震だけでは終わらない、必ず津波が来ると思って「逃げる」
- 「垂直方向」への避難
- 安全が確保できるまで「戻らない」
- 自分で考え、「自分で守る」

宝来館女将 岩崎さん講話



震災当時、実際に避難に使用した宝来館裏手にある避難路。

当時の津波の高さや、女将自身がこの場所で津波に巻き込まれてしまったというお話に、生徒達は驚きを隠せない様子でした。



宝来館の前に建てられている石碑。
石碑には教訓が刻まれています。

「ともかく上へ上へ逃げよ。
てんでんこで逃げよ。
自分を助けよ。
この地まで、津波が来たこと
そして、裏山へ逃げ多くの方が助かったことを
後世に伝えて欲しい。」



最後は女将自ら大漁旗を振ってお見送りしていただきました。

東日本大震災避難路 追体験



震災当時、釜石の人々が実際に避難した道を、当時のエピソードをお話していただきながら追体験しました。過去からの避難訓練の経験が役に立ったことなどを聞き、生徒たちは口々にこれまでの避難訓練に臨む姿勢を反省すると共に、とにかく逃げることの大切さを学びました。



©SHIZUOKA BlueRevs



©SHIZUOKA BlueRevs



©SHIZUOKA BlueRevs



©SHIZUOKA BlueRevs

いのちをつなぐ未来館見学

避難路追体験の後には、いのちをつなぐ未来館へ移動し当時の状況などを説明していただきました。当時、最大で32.8mの津波が到達したこと、時速36kmという速さにも子供たちはびっくりしていました。

またこういった災害が起きた際は、どんな場所でも治安が悪くなるということも同時に話していただき、防災だけでなく防犯もとても重要だということ、ハザードマップは人間の作ったものであり、時に自然は想定を超えてくるため有事の際でも自分で考え、行動することの大切さを学びました。



釜石鵜住居復興スタジアム見学



震災により被災した小中学校の跡地に東日本大震災からの復興を目指すシンボルとして建設されたスタジアム。各々このスタジアムに込められた釜石の人々の想いを感じ取ったようでした。また2019年に開催されたラグビーW杯では試合会場として使用されたこともあり、このスタジアムで試合ができることの喜び、感謝の気持ちを持って全力で戦うことを誓いました。



交流会



1日目の最後は「釜石市民ホールTETTO」にて釜石シーウェイブスアカデミーの子ども達と交流会を実施。会の冒頭、こども達に課されたミッションは

- **相手チームの名前と顔を最低3人以上覚える！**
- **翌日の試合で挨拶をして握手をする！**

始めは緊張もあり、なかなか手こずっている様子が見られましたが、会が終わりを迎える頃にはすっかり打ち解け、楽しいひと時を過ごすことができました。

最後はお互いに握手をして交流会ノースайд🍷



ともだちマッチ

静岡ブルーレヴズ
ラグビースクール

22-26

釜石シーウェイブス
アカデミー

前日の震災学習でスタジアムが被災した学校の跡地に建設されていること、釜石の人々の様々な想いが込められている特別なスタジアムであることを学びました。試合当日は、このような特別なスタジアムで試合ができることに感謝と誇りを持って戦おう！と全員で意思統一し臨んだ一戦でした。

試合は釜石シーウェイブスアカデミーボールでキックオフ。前半5分、ゴール前スクラムから連続攻撃を浴び、シーウェイブスのトライ スコアは0-5。レヴズも負けじと連続攻撃を行い、前半10分にトライ。惜しくもゴールは決まらずスコアは5-5の同点に。その後、前半終了間際にトライされてしまい5-12でハーフタイムへ。

後半はシーウェイブスの連続トライで苦しい展開に。レヴズは後半11分のトライを皮切りに追い上げるも、力及ばず。惜しくも敗戦となってしまいました。それでも最後まで諦めずに戦い抜いた姿にこの試合にかける思いを感じ取ることができました。



ともだちマッチ

	前半	後半
1	安田 光秀	矢嶋 航
2	太田 涼佑	太田 涼佑
3	渥美 諒哉	渥美 諒哉
4	梅田 勝成	梅田 勝成
5	鈴木 佑	鈴木 佑
6	佐藤 亮太	香坂 航汰
7	福井 咲太郎	芦澤 陸
8	高橋 朔史	佐藤 亮太
9	村松 将希	村松 将希
10	倉田 朗偉	倉田 朗偉
11	盛 駿斗	盛 駿斗
12	今明 夏樹	今明 夏樹



沢山の方々の思いが詰まったスタジアムで試合をすることができ、とてもうれしかったです。試合には負けてしまいましたが、一体感のあるアタックや良いタックルが何本もあり、自分たちの成長を感じることができました。

これからも一人前のラグビー選手として胸を張れるように頑張っていきたいと思います。

ゲームキャプテン 村松 将希

スクール生感想（震災学習）

今回、震災学習を通してラグビーにおける助け合いと、避難するときの助け合いが似ていると感じました。また釜石にとってのラグビーのようにスポーツが人々にあたる影響の大きさも感じることができました。

これまで震災のことを忘れてはいけなかったと言われてきたが実際に現地に行くことでよりその気持ちが強くなりました。

これからもできることがあれば積極的に行っていきたいです。

この遠征で震災について学ぶことができました。宝来館の女将さんのお話や、いのちをつなぐ未来館の職員の方のお話を聞き、震災の恐ろしさを知ることができました。

宝来館の女将さんのお話が特に心に残りました。女将さんが実際に被災した体験を映像を交えてお話して下さり、すごくリアルに感じることができました。またお話の中で「助けられる人ではなくて、助ける人になろう」という言葉が特に心に残りました。

とても大切なことを学んだ1日でした。

体験談を通して津波の恐ろしさと、逃げる人々の必死さを学ぶことができました。今後、自分で自分の身を守るために人に言われる前に考え、行動することができるようになりたいです。

津波はいつ来るかわからないので常に頭の片隅に入れて気を付けようと思いました。他にも非難する際は山や、丈夫な高い建物に逃げることに、前もって避難ルートを確認しておくことなどの備えの大切さを学びました。

スクール生感想（震災学習）

今回の遠征で震災について詳しく学ぶことができました。自分自身も津波がいつ来るかわからない地域に住んでいるので守る側の人になれるようになりたいです。明日の試合では今回お世話になった方々への感謝の気持ちを持って臨みたいです。

震災学習では自分がどう行動するかによって自分の命が左右されるということや、自分の心で冷静に考えて行動することが大切だと分かった。他にも津波が来たら高い場所への避難、海や川から離れることも大切だと分かった。

今日の震災学習で改めて地震への警戒心が高まった。この遠征での経験を友達や家族に伝えたい。特に地震が来たら必ず津波が来ると思ってまず逃げるのが重要だと理解できた。

今日の震災学習で改めて地震への警戒心が高まった。この遠征での経験を友達や家族に伝えたい。特に地震が来たら必ず津波が来ると思ってまず逃げるのが重要だと理解できた。

これまで自分が聞いてきた話と、現地で直接お話を聞くのとは全然印象が違った。M9.0 世界で4番目に大きな地震による津波、地盤沈下の恐ろしさを改めてよくわかりました。これまでの防災訓練はどこか面倒くさいと思っていたが、これからは真剣に取り組みたいです。

スクール生感想（震災学習）

当時の映像を見て改めて東日本大震災の恐ろしさを知った。地震が来たら津波が来る、すぐ逃げる、津波は想像以上に速いということが分かった。静岡も南海トラフ大地震がくると言われているので備えをしておこうと思った。自分の住んでいる地区は海から離れていて津波の心配はないと思っていたけど女将さんの言っていた「水の道から津波はくる」という言葉でこれからはもっと注意しようと思いました。

実際に被災し津波を経験した女将さんの話を聞いたり、実際の津波の映像を見て津波や地震などの震災の怖さを実感することができた。地震が来たら逃げること、安全が確認できるまで家に戻っていけないことなどためになることがたくさんあった。避難路追体験では実際に避難した場所を回ったり当時のことをお話いただいて状況を知ることができた。僕たちが住んでいる静岡でも南海トラフ地震がいつ起きるか分からないので今日のお話にあったように防災訓練を真剣に取り組み備えたい。

津波は一昼夜襲ってくるため安全が確認するまでは家に戻ってはいけない。地震が起きた際は津波がくると思って逃げるのが大切ということ学びました。まず自分の身は自分で守ることで最終的に人を助けるということにつながるということが心に残りました。

スクール生感想（震災学習）

改めて津波の危険性を学ぶことができた。避難する際は高い場所に逃げるのがとても大切。今後、磐田で地震が起きた時にはすぐ高台に避難したいと思います。また災害時はみんなで協力することの大切さも理解できた。

鵜住居復興スタジアムが建つまでの長い道のり、たくさんの人たちの思いがよく伝わりました。そんな人々の思いが詰まったスタジアムで戦えることに感謝して全力で戦いたいです。

普段から防災訓練などでなんとなく震災の恐ろしさはわかっていたつもりだったけど資料や体験談などを聞いて改めて恐ろしさを実感しました。





【大漁旗】

静岡と釜石の絆を繋げていく象徴として2022年に作成。
この大漁旗には、静岡の象徴の「富士山」と釜石の象徴の「はまゆり」
を織り込んでいます。

また静岡ブルーレヴズと釜石シーウェイブス両エンブレムの間には、
ラグビーボールを描き、ラグビーを通じて育んできた友情、絆を表現。

この先も静岡と釜石の絆を紡いでいくことができるようにと願いが込め
られています。



Special Thanks

始めに、この場をお借りして釜石市の皆さま、釜石シーウェイブスRFC/アカデミーの皆さま、また本遠征を実施するにあたり多大なるご支援、ご尽力を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

3年目の遠征となった今回も、ラグビーを通じた同世代の選手との交流はもちろんのこと、震災学習での学びは南海トラフ地震発生の可能性がある東海地区に住む我々にとって、とても有意義な遠征となりました。

最初はどこか遠足気分だった子ども達ですが、震災学習での真剣な眼差し、試合では最後まで諦めずに戦う姿に大きな成長を感じ取ることができました。

最後に、今年も絆をまた1つ紡ぐことができたことを私自身、非常にうれしく思います。大漁旗に込めた願いの通り、この絆が永く続いていくことを心より願っております。

静岡ブルーレヴズラグビースクール 代表 加藤 圭太

